

1. 研究課題名： エコ・リバブルシティの都市構造モデルの構築とその計画論に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属：氏原 岳人
(岡山大学 廃棄物マネジメント研究センター)



3. 研究実施期間：平成 27-29 年度

4. 研究の趣旨・概要

都市計画の成功事例とされる諸都市を見渡すと、「低炭素」でかつ「住みやすい」都市は多い。つまり、これらは相反するものではなく、人々のライフスタイルや意識も含めて、根源的な共件事象の存在が示唆される。

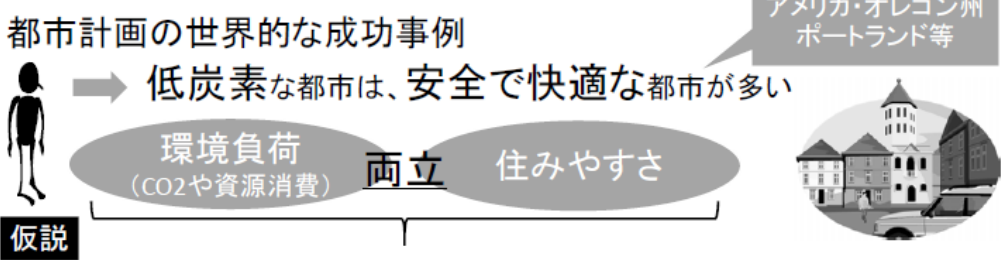
そこで本研究では、①低炭素でかつ住みやすいを同時に実現する「エコ・リバブルシティ」の都市構造モデルを明確化するとともに、②国内の地方都市をケーススタディとした調査・分析などを通じて、その実現のための計画論を構築する。これら研究成果は、「環境にやさしい都市は住みやすい」を実現する環境政策の新たな方向性を示すことが期待される。

5. 研究項目及び実施体制

- ①エコ・リバブルシティの都市構造モデルの構築 (岡山大学)
- ②エコ・リバブルシティの実現に向けた計画論の確立 (岡山大学)

6. 研究のイメージ

2RF-1502 **エコ・リバブルシティの都市構造モデルの構築とその計画論に関する研究**
 岡山大学 廃棄物マネジメント研究センター 氏原岳人 (都市計画学)
 岡山大学 地域総合研究センター 岩淵 泰 (住民参加・合意形成論)



「環境負荷」と「住みやすさ」の間に根源的な共通事象が存在するのでは？

つまり 低炭素でかつ住みやすい都市(エコ・リバブルシティ)を同時に実現するためには、根源的な共通事象の特定し、新たな都市モデルが必要

本プロジェクトの目的

エコ・リバブルシティの都市構造モデルを構築するとともに、その実現のための計画論を確立する。

